

農林漁業部会特集 鹿児島視察

市民の暮らしに欠かせぬ「石油」再認識

18年度第5回

全石連農林漁業部会(菅原耕部会長)は10月29日、鹿児島市で会合を開き、農林漁業用国産A重油などの確認実績や船舶燃料の硫黄分規制などについて協議した。翌日は早朝から鹿児島市の「中央卸売市場」を視察し、せりの模様などを視察、市民の暮らしを支えている「食のインフラ」の重要性を再認識した。その後、世界最大級の原油中継備蓄基地「JX喜入石油基地」を見学した。基地の機能や現状についての詳しい説明を聞き、海上から基地の全容をながめ、さらに港内をバスで回った。部会のメンバーは改めて、基地の規模の大きさとともに石油の安定供給に欠かせない存在であることを痛感した。

鹿児島中央卸売市場

食のインフラを支える主役

午前6時、まだ明けやらぬ空の下、中央卸売市場・魚類市場に向かっている。早くも、水蒸気爆発とみられる噴煙が広がっている。海岸に面した道路を進むと、間もなく到着。市場は『薩英戦争』(1863年)の舞台になった鹿児島湾(錦江湾)に面している。市場で迎えてくれた担当者が、委員を先導しながら説明。市場は現在、再整備を進めており、現在は仮市場棟で仕事をしている。総工費120億円をかける大きな事業で、2021年度にすべての工事を終える予定だ。2017年の鮮魚取扱量は計2万1千ト、金額ベースで135億4千万円、このほか、冷凍や塩干などが約4千ト(約37億



早朝の市場を見学する部会委員

安心・安全な食料を安定供給

1615年に藩命によって「御用魚問屋」として設立されたのが始まりで、全盛期には48店が軒を連ねていた。1965年に商工省(当時)の認可を受けて、全国7番目、九州では初の中央卸売市場として発足した。当初は青果市場と魚類市場は併設していたが、取扱量や車両が増加したために魚類市場が現在地(鹿児島市城南町)に移転した。

新鮮食品は一般の商品と異なり、鮮度を保つために長期間の貯蔵ができない。また、自然条件に左右されるために価格が変動しがち。このため迅速に分割し、公正・公平な売買取引をするために市場が必要で、公益性が高く、大規模な施設と多額の費用を要するために鹿児島市が運営している。

市場の機能は①大量かつ効率的な集荷・分荷の多種多様な品



威勢のいい「せり」の声が飛び交う市場



桜島をバックに話す菅原耕部会長

▼基地で働く人々の使命感を痛感
JX喜入石油基地ではスケールの大きさに驚かされた。資源の少ない我が国で、大切な燃料である原油の中継・備蓄基地として、バックアップ

▼全石連農林漁業部会 菅原耕部会長
ことを再認識した。太陽光、風力といった再生可能エネルギーが脚光を浴びているが、これらは自然条件に左右され、供給は安定しない。安定供給するために、バックアップ

▼北海道の魚も扱っている
中央卸売市場に北海道と書かれた空箱があった。全国各地から魚類が運ばれているというので、びっくりした。海で魚を捕る仕事は常に危険を伴っている。そうして得られた魚を市場で大切に扱ってほしいと感じた。

▼県内出身者が9割
薩摩半島と大隅半島にはさまれた錦江湾は荒天時にもタンカーが接岸しやすいこと、地形的に基地が建設しやすいことに加え、地元から熱心に誘致されたことなどが立地の理由だ。1967年に会社を設立し、第1期工事が始まった。69年に第1期工事が完成し初めてのタンカーが入港した。75年に第2期工事が完了。16万キロワットタンク24基、10万キロワットタンク5万キロワットタンク3基、計37基を持つ。貯油能力は計735万キロワット。外航

▼国内需要約2週間分を貯油
鹿児島市中心部からバスで約1時間。桜島が浮かぶマリニャールの錦江湾に「JX喜入石油基地」が全容を見せている。巨大な円筒形のタンクが縦列に並び、林立。世界最大級の原油中継・備蓄機能を有する基地の入口前に立つ農林漁業部会の委員は「予想を超えるスケールの大きさ」に目を奪われた。

▼タンクの浮屋根の上は「運動場級」の広さ
タンクは「浮屋根式」。原油の上に屋根を浮かせた構造で、貯油量によって屋根が上下するようになっている。



タンクの浮屋根の上は「運動場級」の広さ

▼再整備されると、市場はメー
ーを一新する。現在、せり落としていくのは開放型だが、衛生面の配慮もあって閉鎖型になる。市場内には関係者以外の一般の人利用できない飲食店もあり、錦江湾岸の新しい名所になるだろう。

▼タンクは「浮屋根式」。原油
の上に屋根を浮かせた構造で、貯油量によって屋根が上下するようになっている。

▼見学を終えた同部会東北支部
の富士原悦幸委員(北日本石油取締役役台支店長)は「スケールの大きさに驚きました。タンクは7年に1回点検・補修していることを含め、環境対策に力を入れていることを改めて感じました」と話していた。

▼7年に1回、定期点検と改修
をします」と中川さん。ちよびこの時期、10万キロワットタンクが開放点検中で、タンク内に入ることはできません。真暗で懐中電灯を頼りに進むと浮屋根の上を歩くのがあった。はじめての経験だ。

▼タンクは「浮屋根式」。原油
の上に屋根を浮かせた構造で、貯油量によって屋根が上下するようになっている。

▼見学を終えた同部会東北支部
の富士原悦幸委員(北日本石油取締役役台支店長)は「スケールの大きさに驚きました。タンクは7年に1回点検・補修していることを含め、環境対策に力を入れていることを改めて感じました」と話していた。

▼7年に1回、定期点検と改修を
します」と中川さん。ちよびこの時期、10万キロワットタンクが開放点検中で、タンク内に入ることはできません。真暗で懐中電灯を頼りに進むと浮屋根の上を歩くのがあった。はじめての経験だ。

▼タンクは「浮屋根式」。原油
の上に屋根を浮かせた構造で、貯油量によって屋根が上下するようになっている。



日本の石油インフラを支えるJX喜入石油基地(同基地提供)

TATSUNO

TATSUNO Challenge





近日発売

大気環境配慮型SS 認定制度がはじまりました。

ガソリンペーパーを回収するエコステージDシリーズは【e-AS】の認定計量機です。



詳しくは、弊社営業マンまでお問い合わせください。

